

テラスモール湘南

Terrace Mall Shonan

No. 12-018-2011作成

新築

物販／飲食／集会所／その他

発注者	湘南辻堂インベストメント (建築主代表：住友商事㈱、GICリアルエステート)	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術／FB
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所 TAISEI DESIGN Planners Architects & Engineers	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	大成建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

段丘状のテラス「湘南緑の丘」と賑わいのシーン

設計趣旨

JR辻堂駅北口の関東特殊製鋼工場跡地である約25万haの一角に位置しこれまでの一般的な駅前開発とは違い、生活する場を意識した駅前の在り方を改めて考え施設構成をまとめた。

駅の南側は相模湾に向かって数分も歩けば戸建の住宅が展開する、ヒューマンスケールの街並みが連なっている。それに対し北側は、大きく街区が区切られ、ゆったりとしたバスターミナルも整備され、その街並みのあらわれかた、スケールは南側とは異なったものとなっている。

計画ではこのことを踏まえ、駅から降り立つときの眼前に広がる設え、人々を受け入れていくスムーズな動線と視線を意識し単純な箱型開発ではない、湘南の地形、風土を意識した「相模湾から北側の藤沢の丘陵地域に上っていく」段丘のような断面形状を広場側に向かって構成し、歩行者に対する圧迫感を抑え、街のスケールになじむボリューム感を演出した。この段丘部分は施設のテナント構成の特性とも整合性を図りながら、集い、談笑し、食事をするといった人の動きそして賑わいのシーンを「見る、見られる」の関係がお互いに感じられる環境や雰囲気演出できるよう計画した。

一方、駅前広場から北側の神台公園へ抜けていく動線部分には湘南風の街並みをイメージした独立型の小割の施設で構成する「湘南ビレッジ」を配置した。

太陽光発電や風力発電、氷蓄熱システム等も併せて計画し、施設全体でエコを意識し人にやさしく利用者に永く愛され続けてもらえるよう計画した。

利用客が自分の家にいるのと同じようにくつろぎ、ここに新たなコミュニティが生まれ、本当の意味での「ライフスタイルセンター(米国西海岸で主流となっている商業スタイル)」となることを期待している。



辻堂駅ペDESTリアンデッキより望む

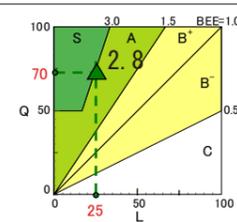


辻堂駅からテラスへ通じるアプローチ



建物鳥瞰

建物データ	所在地	神奈川県藤沢市辻堂神台1-3-1	省エネルギー性能	PAL削減	23 %	CASBEE評価	Aランク
竣工年	2011年	ERR(CASBEE準拠)	37 %	BEE=2.8		2008年度版	
敷地面積	59,147㎡	LCGO ₂ 削減	34 %	自治体提出			
延床面積	164,176㎡						
構造	S造						
階数	商業棟 地上5F ヴィレッジ棟 地上2F						



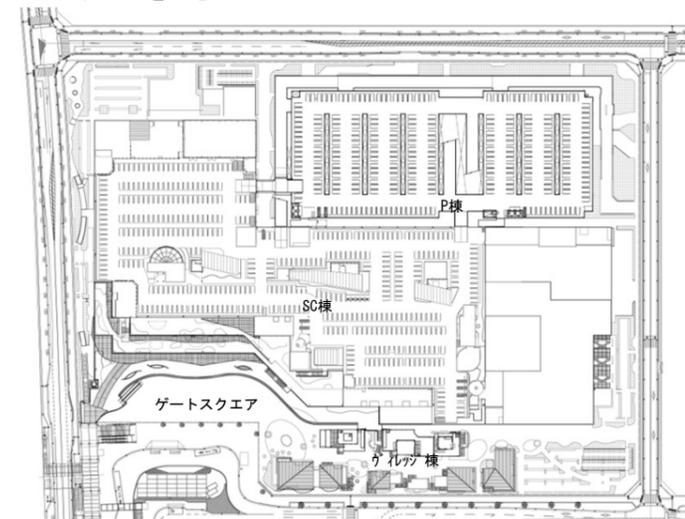
4階テラスよりゲートスクエアを望む



自然光あふれる内部モール



案内図



配置図兼1階平面図



断面図

- 主要外装
 - ALCフラット/テグザイン® ネット100の上吹付タイル
 - ・装飾系塗材
- 主要内装(専門店共用部)
 - 床: 300~600角磁器質タイル模様貼り(1F~2F)
 - タイルカーペット敷き(F3~4F)
 - 壁: GBt12.5の上EP塗装
 - 天井: GBt12.5の上EP塗装

設計担当者

統括: 網干和/建築: 中澤織行、渡辺健吾、田中英輔/構造: 小林祥一、藤永直樹、安川真知子、設備/廣川純一、中砂克郎、木下清一

監理: 杉岡英幸、小田原博、宇田川公男、尾上忠彦、大枝洋介、池川孝夫

基本構想・監理技術コンサルタント: 日建設計 土屋中、米田潤、西岡理郎、村上政司、海老名義男、村上准二 環境設計: 船場 福島正和、弘田明夫、神谷司

主要な採用技術(CASBEE準拠)

- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮(建物配置や形態の街並みとの調和、新たなシンボルの形成)
- LR1. 1. 建物の熱負荷抑制(Low-eガラス、パーゴラ、屋上緑化、壁面緑化)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用(自然採光、太陽光パネル)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化(LED照明、人感センサー、氷蓄熱システム)
- LR1. 4. 効率的運用(BEMS)
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮(LCCO₂削減)